

静岡県下における母子間 HBV 感染予防体制ならびに その成績について

吉 沢 浩 司*

要約：昭和61年1月から昭和62年6月までの間に、静岡県内では140例のHBV母子感染予防が行われ、うち12例(8.6%)にHBs抗原の出現が認められたが128例(91.4%)については感染予防に成功している。

この成績は、静岡県B型肝炎対策実施専門委員会により把握された県下全域のこの期間内における全対象例についてのものである。

地域におけるHBV感染予防対策のモデルとして静岡県が現在とっている方式およびその成績の詳細ならびに今後の展望について述べる。

見出し語：B型肝炎ウイルス(HBV)、HBV母子感染予防、HBVキャリア

実施方法

1. 静岡県におけるB型肝炎母子感染予防 実施体制

HBV母子感染予防実施体制を図1に示す。

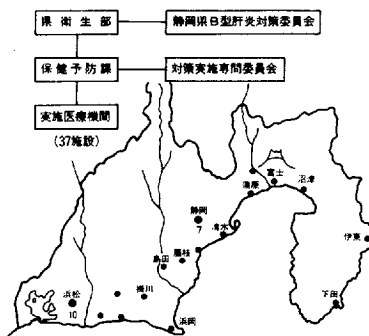


図1：静岡県におけるB型肝炎
母子感染予防実施体制

すなわち、行政、専門家、実施病院が一体となった協力体制がとられている。予防実施病院は県保健予防課と契約関係を結んだ37病院に限定し、可能な限り県内全域に広く分散するように配慮されている。

B型肝炎対策実施専門委員会（以下専門委員会と略す）は四半期毎に年4回開催され、その都度の成績を集計、討議し、その後の方針を決定している。37の実施指定病院の実務担当者会議は年2回、上記専門委員会の主導の下に開かれ、実態把握率、予防率の向上のための具体的な討議を行い、実施病院全体のレベルの向上を図っている。

2. 予防実施例のフォローアップスケジュール

専門委員会で討議の末予防実施の実効把握

* 浜松医科大学公衆衛生(Dept. of Public health,
Hamamatsu University School of Medicine)

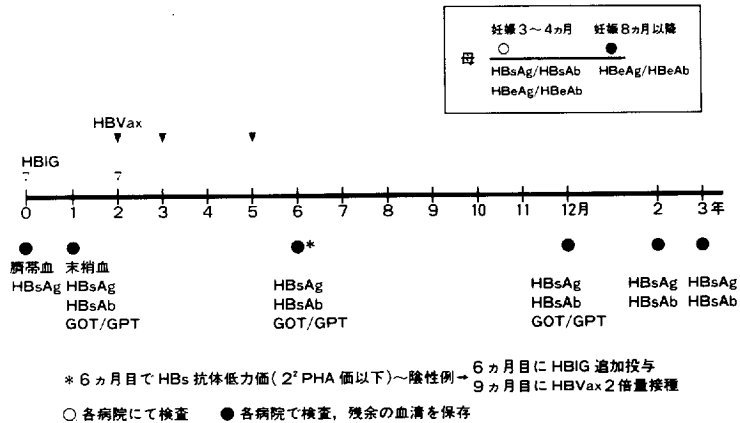


図2: Follow up スケジュール (静岡県)

を行うことを目的としたフォローアップスケジュールを定めている(図2)。

図中に示す各ポイントの血清サンプルは検査終了後に保存することを各実施病院に要請し、毎年四半期ごとに収集し、県予防医学協会において統一的に検査測定し、専門委員会において予防成績の集計ならびに検討を行っている。

結果

1. B型肝炎母子感染予防実施状況

表1は昭和60年7月から昭和62年6月までの県下の妊婦のHBVマーカーのスクリーニング実施状況を示す(表1)。

表1: B型肝炎母子感染予防実施状況 (静岡県)

年度	HBs抗原検査数	HBs抗原陽性者数(%)	HBe抗原陽性者数(%)
1985	20,385	171(0.84)	41(29.1)
1986	39,600	331(0.84)	94(28.4)
1987 (4月~6月)	9,622	76(0.79)	29(38.2)

県下では毎年約40,000人の出産が見込まれており、昭和61年度の総受診者数39,600人からみると全妊婦の約99%がHBs抗原の検査

を受けていることがわかる。

2. HBV母子感染予防実態把握率

表2は対象140例の実態把握状況を示す。

表2: HBV母子感染予防実態把握率 (1985.1~1987.6出生分 静岡県)

対象	例数	血清保存数(%)	調査回答数(%)	合計(%)
母	140	63 (45.0)	29 (20.7)	92 (65.7)
臍帯血	140	64 (45.7)	40 (28.6)	104 (74.3)
生後1ヵ月	133	75 (56.4)	24 (18.0)	99 (74.4)
生後6ヵ月	89	62 (69.7)	7 (7.9)	69 (77.5)
生後12ヵ月	39	26 (66.7)	2 (5.1)	28 (71.8)

1987.6.現在

現在までのところ、必ずしも満足すべき把握率とはなっていないが専門委員会では90%以上の直接把握率を目ざして努力を重ねている。

3. HBV母子感染予防率

表3はHBV母子感染予防率を示す。経過中140例中12例(8.6%)にHBs抗原の出現が認められている。

経過中にHBs抗原の出現をみた12例について、HBs抗原の出現時期および出生時の処置をみると、12例中9例(75%)に生後1ヵ月以内にHBs抗原の出現がみられ、また出生時にHBs抗原が陽性であった7例中5

表3：B型肝炎母子感染予防成績
(1987.6現在 静岡県)

予防措置実施例	経過中HBs抗原出現例*(%)
140	12 (8.6)

*12例のHBs抗原が初めて検出された時期
 出生時 7例
 生後1ヵ月 2例
 生後2ヵ月 1例
 生後3ヵ月 1例
 生後10ヵ月 1例

例(71.4%)にHBIGの投与が行われている。一方1例において生後10ヵ月目にHBs抗原の出現をみている点が注目される(表4)。

表4：12例のHBs抗原出現時期およびその処置
(1985.1~1987.6 静岡県)

症例No.	HBs抗原出現時期	処置
1	出生時	HBIG 1回投与
2	出生時	HBIG 1回投与
3	出生時	HBIG 1回投与
4	出生時	処置せず
5	出生時	HBIG 1回投与
6	出生時	処置せず
7	出生時	HBIG 1回投与
8	生後1ヵ月	HBIG 1回投与
9	生後1ヵ月	HBIG 1回投与
10	生後2ヵ月	HBIG 1回投与
11	生後3ヵ月	HBIG 2回, HB Vax 1回投与
12	生後10ヵ月	HBIG 2回, HB Vax 3回投与

3. 経過観察期間中のHBs抗体価の推移

図3は血清が保存され、統一Assayが行われた症例の生後5, 6, 7ヵ月目および11, 12ヵ月目のHBs抗体価を示す(図2)。生後6, 7ヵ月目のHBs抗体価 2^2 PHA価以下のワクチン低反応群については、HBIGの追加投与ならびに生後9ヵ月目でのHBワクチンの追加接種を勧告している。なお、生後11, 12ヵ月目のHBs抗体価はほぼ満足のいく力価を示していることがわかる。

4. 若年層におけるHBs抗原・抗体陽性率

表5は県下の小, 中, 高校生のHBs抗原・抗体陽性率を示す。年令が5才若くなる毎にHBs抗原・抗体陽性率が著明に減少していることがわかる。これは主として幼小児期にお

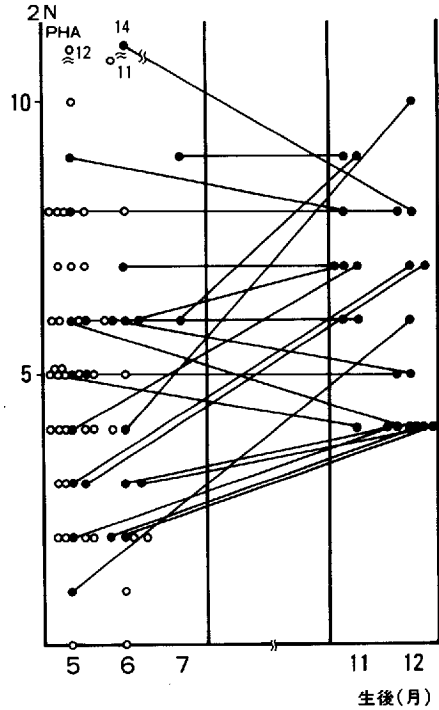


図3：経過観察期間中のHBs抗体価の推移
(1987 静岡)

表5：若年令層におけるHBs抗原・抗体陽性率 (1987 静岡県)

年令	例数	HBs抗原陽性(%)	HBs抗体陽性(%)
6~9	1,253	3 (0.24)	4 (0.32)
10~14	7,541	44 (0.60)	139 (1.84)
15~19	3,206	23 (0.72)	98 (3.06)
合計	12,000	70 (0.58)	241 (2.01)

ける水平感染の減少に起因すると考えられる。

考察：静岡県ではHBV母子感染予防対策が実施されるにあたり、各方面の協力によって県下全域での実態把握を行い得る体制を整えることができた。現時点においては未だ血清保存率、出生時にHBs抗原が検出された例に対する処置、HBワクチンの低反応者群に対する処置等々今後解決しなければならない問題が数多く存在するが、この機構が適切に

運用され、新しく予防に参加した病院の肝炎対策に関する質的向上が行われれば、やがては治験時に得られていた予防率と同様の成績が地域単位で得られるようになることが期待される、さらに地域単位での予防の実効が上

中、高校生を対象とした血清疫学的背景調査の数字の上に現われてくることにより、予防処置を行った症例の予防率との両面からその全体像が把握できるようになることが期待される。

ABSTRACT

Prevention System for Vertical HBV Transmission in Shizuoka Prefecture

Hiroshi Yoshizawa*

In Shizuoka prefecture, babies born to HBeAg positive HBV carrier mothers were treated for prevention of vertical transmission using HBIG and HB vaccine during January, 1986 through to June, 1987, 12 out of 140 cases (8.6%) turned out to be HBsAg positive and another 128 cases (91.4%) were succeedingly prevented.

This result represents all cases in the prefecture during the period brought under control of the Committee for Promotion of Prevention of HBV transmission.

As one of the models for prevention of HBV transmission in regional areas, the system organized by Shizuoka prefecture, and its result in detail as well as its future prospect are reported.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:昭和61年1月から昭和62年6月までの間に、静岡県内では140例のHBV母子感染予防が行われ、うち12例(8.6%)にHBs抗原の出現が認められたが128例(91.4%)については感染予防に成功している。

この成績は、静岡県B型肝炎対策実施専門委員会により把握された県下全域のこの期間内における全対象例についてのものである。

地域におけるHBV感染予防対策のモデルとして静岡県が現在とっている方式およびその成績の詳細ならびに今後の展望について述べる。